

みなとまちエリア 歴史マップ (昔)



名古屋港管理組合所蔵

「東洋一の大運河」中川運河

中川運河は、名古屋港と旧国鉄笹島貨物駅とを結び、水位が一定に維持される閘門式運河として、大正 15 (1926) 年に工事に着工、6 年後の昭和 7 (1932) 年に運河全線が供用開始され、当時の新聞では「東洋一の大運河」と呼ばれていました。

名古屋港と市街地を結び堀川・新堀川は名古屋圏を支える物流運河として規模が小さかったことなどから中川運河が計画・整備され、ピークの昭和 40 (1965) 年頃には 7 万 5 千隻の船が往来するなど、水運物流の軸として名古屋の経済・産業の発展を支えてきました。
名古屋市 HP 参照



名古屋港管理組合所蔵

運河の開削と地盤の嵩上

名古屋市南西部の土地は名古屋港平均海面以下のところもあったため、地盤の嵩上げが必要でした。そこで中川運河の開削とともに掘った土を利用して両岸の敷地造成が行われ、そこに工場が誘致されました。そのため、今でも運河周辺には多くの工場や倉庫が集積しています。
名古屋市 HP 参照



中川口通船門

中川口通船門は、水位差のある名古屋港と中川運河を船で通航できるように整備された施設です。通常、中川運河の水位は名古屋港よりも低いため、水門で仕切られた閘室内の水位を上下に調節し、船の通航を可能にしています。昭和 5 (1930) 年に第一閘門が整備されましたが、最盛期には 10 時間以上の待合を強いられましたことから、昭和 38 (1963) 年に第二閘門が整備され、第二閘門は現在も使用されています。
名古屋市 HP 参照



金城ふ頭

名古屋港管理組合所蔵

金城ふ頭は、昭和 38 (1963) 年に埋立工事が開始されました。昭和 43 (1968) 年には金城ふ頭にコンテナターミナルが整備され、名古屋港で初めてのフルコンテナ船「箱根丸」が入港するなど、商港機能の中枢を担う重要なふ頭として利用されてきました。
名古屋港管理組合 HP 参照



旧国鉄笹島貨物駅



名古屋港管理組合所蔵

この地には、明治 29 (1896) 年に開業した関西鉄道愛知駅がありました。関西鉄道は明治 40 (1907) 年に国有化され、2 年後に愛知駅は名古屋駅に統合されました。その後、昭和 5 (1930) 年頃に中川運河が一部開通すると笹島貨物駅として復活し、水陸交通の結節点として名古屋のものづくりを支えました。
(写真手前：現ささしまライブ)

松重閘門



名古屋港管理組合所蔵

松重閘門は、水位差のある堀川と中川運河を船で通航できるように整備された施設です。昭和 7 (1932) 年に整備され、堀川のバイパスとしても機能していました。欧州の城郭を思わせるデザインとなっており、高い建物のなかった当時はひととき目立った存在でした。
名古屋市 HP 参照

名古屋港跳上橋



名古屋港管理組合所蔵

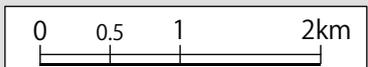
名古屋港跳上橋は昭和 2 (1927) 年竣工の鉄道可動橋で可動橋の第一人者である山本卯太郎の設計製作による上部カウンターウエイト式の跳上橋です。
名古屋周辺では大正期に紡績業が急激な発展を遂げ、膨大な綿花の需要が生まれましたが、綿花は当時、大阪や神戸港に荷揚げされた後に、陸路で輸送されていました。これを名古屋港へ直輸入し鉄道で輸送するために、臨港鉄道を延伸した際にかけられました。運河の水上交通との両立を図るため、4 径間のうち 1 径間を電動可動式桁とし、運河を船が航行するたびに跳ね上げていました。

潮見ふ頭



名古屋港管理組合所蔵

石油需要が増加した大正末期の名古屋港には石油類を収容する施設がなく、他港から鉄道によって運び込まれていました。そうした中で、石油を貯留するための拠点として昭和 5 年に潮見ふ頭が整備されました。戦後のふ頭の拡張工事を経て、昭和 36 (1961) 年に総面積 210 万平方メートルの広大なエネルギー基地となりました。
名古屋港管理組合 HP 参照



みなとまちエリア 歴史マップ（現在）



提供：一般社団法人中川運河キャナルアート
昭和40（1965）年頃をピークに水運物流の機能が小さくなり、今では、広大で水位一定の静水面を活かし、アート活動やアクティビティ、水上バス運航などが進み、賑わいを取り戻しています。
名古屋市HP参照



倉庫群と荷役施設
中川運河の沿岸には今でも歴史的な趣のある倉庫群が建ち並んでいます。特に、水面側に扉やクレーンがついた倉庫は、水運で利用されていた証で歴史を物語る貴重なものです。水上バス「クルーズ名古屋」に乗船して見つけてみましょう。
名古屋市HP参照



中川口通船門
現在も使用されている中川口通船門は、水上バス「クルーズ名古屋」に乗船すれば水位調整（水のエレベーター）を体感できます。名古屋港の水位が日によって異なるため、その水位調整の大きさも日によって異なりますが、運が良ければ約2mの水位調整を体感できます。
名古屋市HP参照



金城ふ頭
金城ふ頭は完成自動車の輸出入を行うなど物流の重要な拠点である一方、近年では交流拠点としての開発も行われており、リニア・鉄道館、マイカーズピア、レゴランドジャパンなどが次々に開業し、名古屋港の賑わいづくりに大きく貢献しています。



ささげまライブ
昭和61（1986）年に貨物駅が廃止されたあと、旧国鉄笹島貨物駅の跡地は都市部に残された希少な大規模遊休地になっていましたが、新たなまちづくりに向けた土地利用への変換を図るため、平成11（1999）年から旧国鉄笹島貨物駅跡地の約12.4haと中川運河船溜まり周辺において本格的な開発が行われました。現在でも名古屋大都市圏の玄関口にふさわしい魅力と活気に満ちたまちをめざして、開発が進められています。
名古屋市HP参照



松重閘門
水運の減少から松重閘門は昭和51（1976）年に閉鎖されましたが、市民の強い要望により保存され、昭和61（1986）年に名古屋市指定有形文化財に指定されました。現在は夜間にライトアップされ、またアート活動の舞台としても活用されています。
名古屋市HP参照



名古屋港跳上橋
昭和2（1927）年に架設された名古屋港跳上橋は、昭和55（1980）年の鉄道廃止後、桁を跳ね上げた状態で保存されました。名古屋港跳上橋は日本に現存する数少ない現代跳開橋の一つであり、その価値が評価され、平成11（1999）年に国の登録有形文化財などに認定されました。
※見学の際は、稲荷橋からご覧ください。



潮見ふ頭
エネルギー拠点として利用されてきた潮見ふ頭において、名古屋港ワイルドフラワーガーデンブルーネットが平成14（2002）年に整備され、園内22のガーデンに、多種多様な植物が植生しています。一部のガーデンでは、隣接する新名古屋火力発電所から排出される温排水を利用して土壌を温めることでまだ寒い早春でも草花の開花を早めることができ、一足先に咲き誇る花々を眺めることができます。
名古屋港ワイルドフラワーガーデンHP参照

